A person wearing blue jeans and white sneakers is pulling a blue and yellow rolling suitcase on a paved surface. The background is slightly blurred, showing a paved area and some greenery.

コロナ後の旅行意図を踏 まえた、海外旅行のマ ーケティング戦略への提言

商学部 濱岡豊研究会3年 笹島健樹

目次

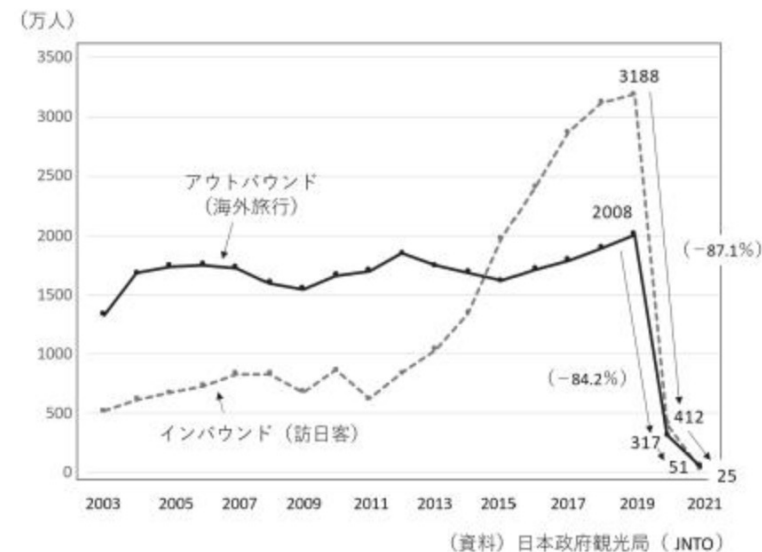
- 研究の背景と目的
- 仮説の枠組み
- 仮説設定
- 単純集計
- 回帰分析
- 考察
- 提言
- 謝辞
- 参考文献

研究の背景と目的

- コロナ禍により、旅行業界は大きな打撃を受けた。しかし、徐々に旅行需要が回復しつつあり、2023年にはコロナ前の水準に戻るとの予測もある。しかし、コロナ禍で旅行に対する価値観やニーズが変化したことから、従来のマーケティング戦略では効果が薄い可能性がある。
- そこで、コロナ後の旅行のニーズを把握し、どのような人にどのようなアプローチを行うべきかなど、新しいマーケティング提言を行う。

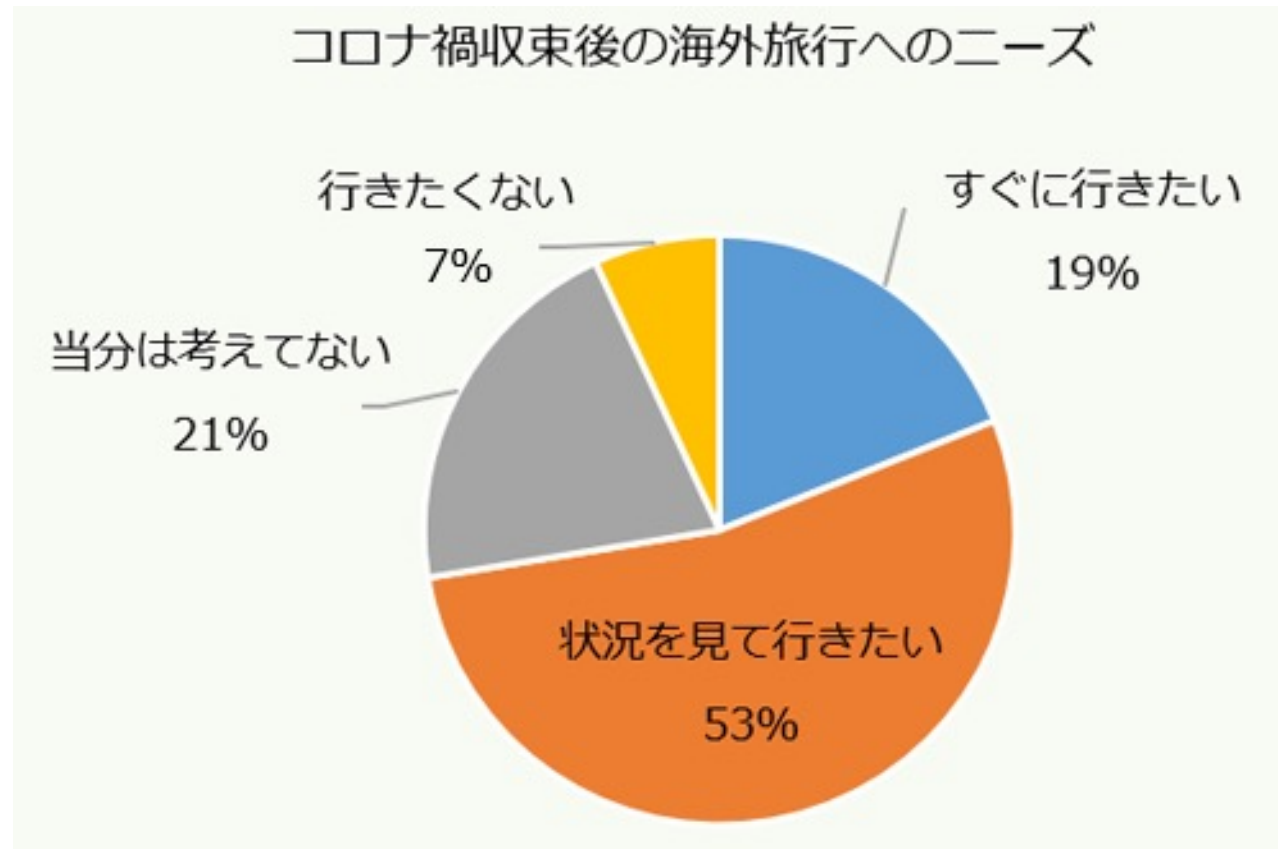
二次データ①

- 東(2022) 「コロナ禍と日本の観光～課題と展望」 総合観光学会誌『総合観光研究』第20号
- 新型コロナウイルスの感染拡大は観光に甚大な影響を及ぼした。海外旅行者数はコロナ前の2,008万人から84.2%減の317万人となった



参照: https://www.jstage.jst.go.jp/article/sogokanko/20/0/20_11/article/-char/ja/

二次データ②

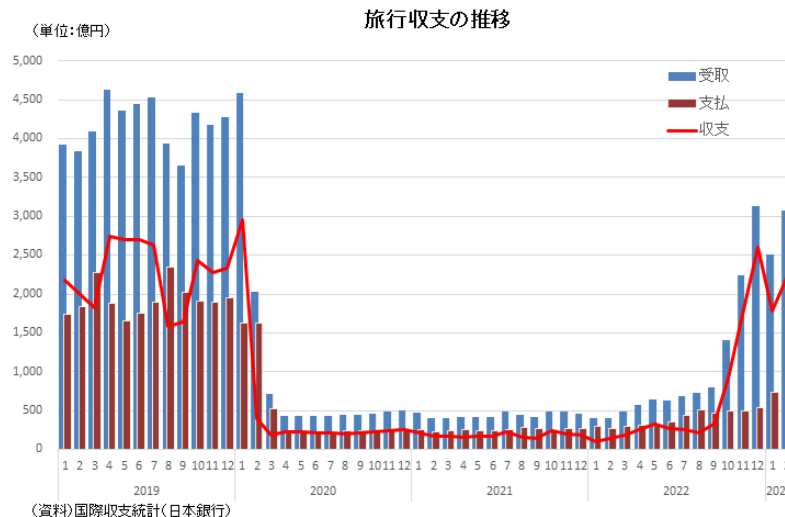


コロナ後であっても行きたくないという人の割合は少なく、行きたい人が約7割存在する。このデータから海外旅行へのニーズが落ちているわけでは無いことが読み取れる。

参照: <https://www.am-one.co.jp/warashibe/article/tsukau-20210506-1.html>

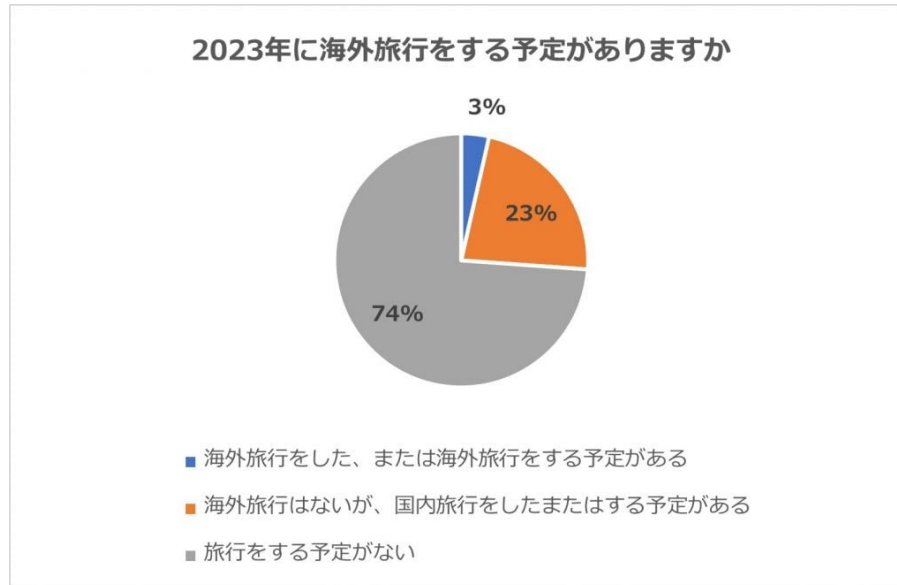
二次データ③

- 国際収支統計の旅行収支をみると、2022年10月から入国制限が緩和され受取（外国人の日本での支出）は急激に増加しているが、支払（日本人の海外での支出）は海外旅行の回復の足どりが重く、国際旅客運送業はコロナ禍からの回復途上にある姿がうかがえる。



二次データ④

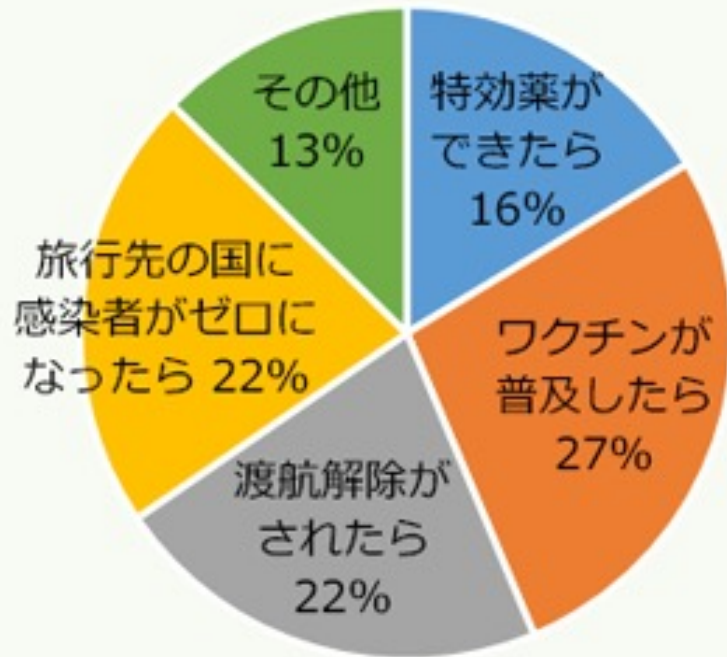
- 調査方法：Uvoice調べ
調査対象：全国20歳以上の男女
調査期間：2023年2月15日（水）
回収サンプル数：4,933
サンプル属性：
男女比：男性（49.3%）、女性（50.7%）
年代別：20代(18.8%)、30代（20.3%）；40代（20.3%）、50代（20.4%）、60代以上（20.3%）



2023年には海外旅行をする予定がない人が大半であることから、まだ海外旅行は忌避されている現状が読み取れる。

二次データ⑤

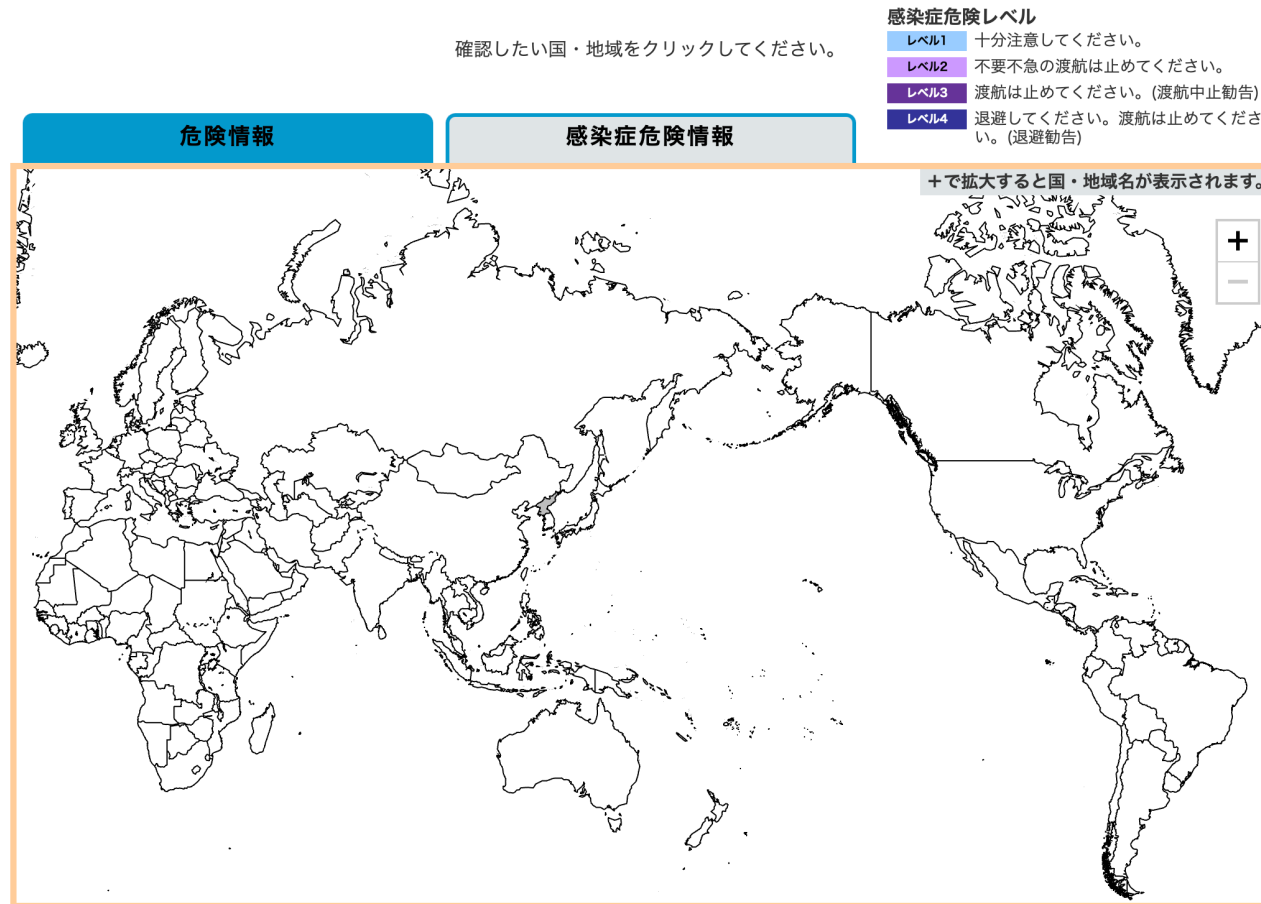
海外旅行を検討するきっかけ



海外旅行の検討にはワクチンや特効薬や感染者などの要素があることから、やはり海外旅行が忌避されている現状はコロナによってもたらされたものであり、まだコロナへの恐怖心を払拭できていないことが読み取れる。

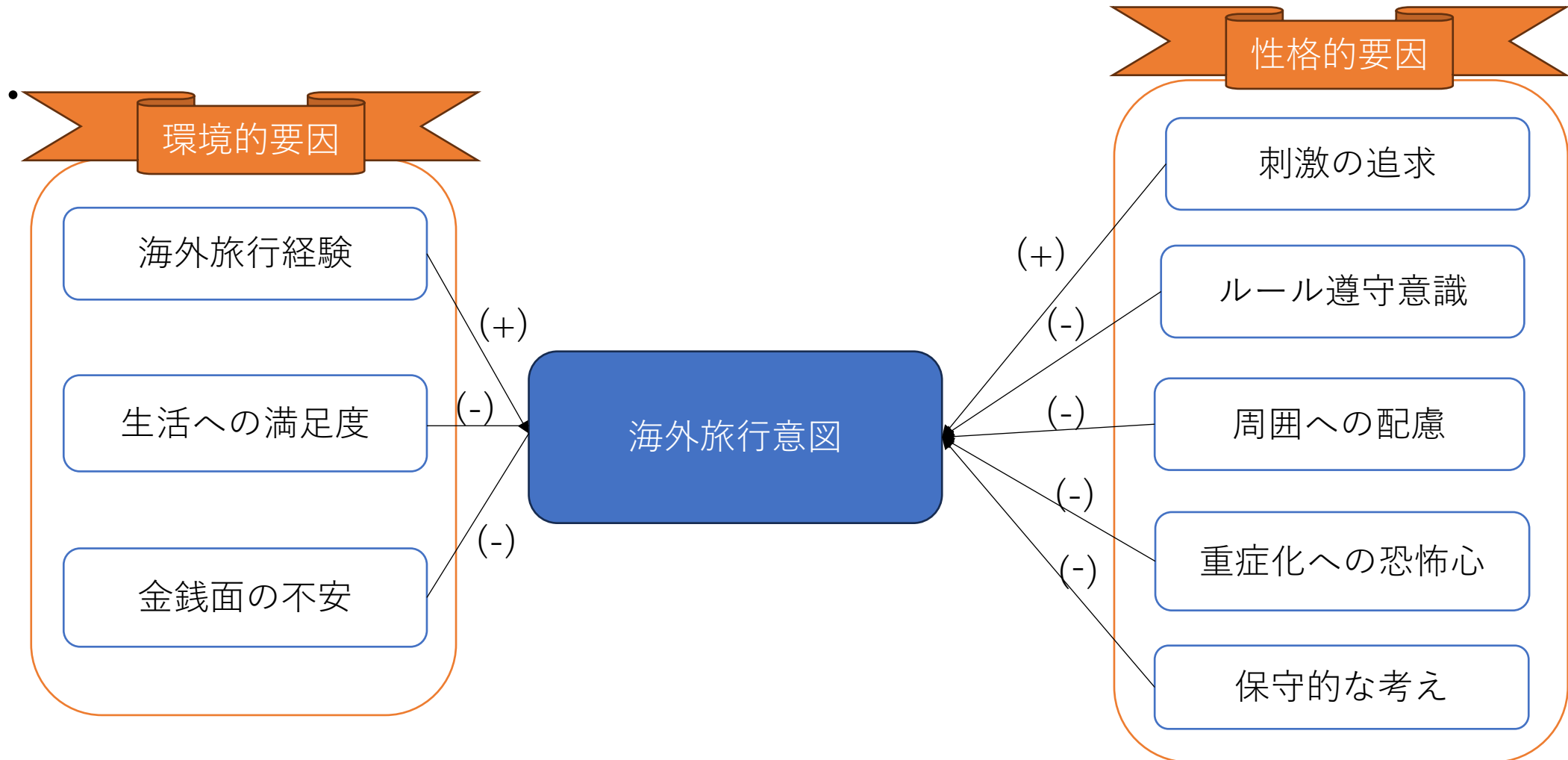
参照: <https://www.am-one.co.jp/warashibe/article/tsukau-20210506-1.html>

二次データ⑥



2023年12月時点では外務省の海外安全ホームページには感染症に注意する必要がある地域は記載されていない。

仮説の枠組み



仮説を立てるにあたって

- コロナ後の海外旅行意図が高い

→q10-4 「新型コロナによる渡航中止勧告が解除されたらすぐに海外に渡航するだろう」に当てはまること

- コロナ後の海外旅行意図が低い

→q10-7 「この先しばらくは、感染危険レベルの高い旅先には旅行しないだろう」に当てはまること

仮説設定

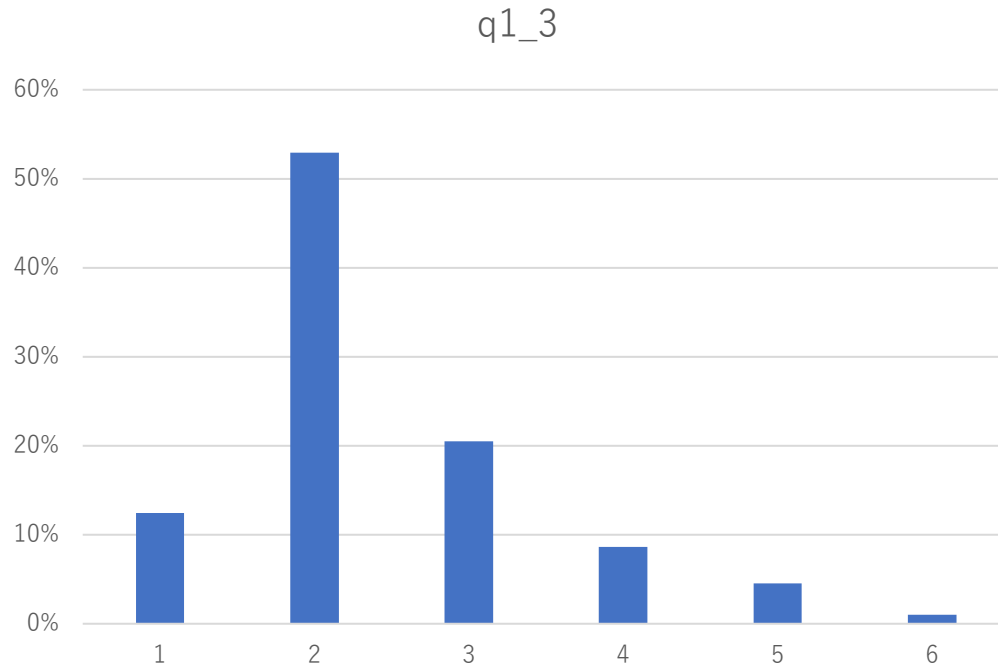
| 仮説番号 | 仮説 | 質問番号 |
|--------|--|-------|
| He1(+) | 海外旅行経験が豊富である事とコロナ後の海外旅行意図の高さは正の相関がある | q1_3 |
| He2(-) | 生活への満足度が高い事とコロナ後の海外旅行意図の低さは正の相関がある | q6 |
| He3(-) | 金銭面への不安がある事とコロナ後の海外旅行意図の低さは正の相関がある | q11_4 |
| Hp1(+) | 刺激を重視する事とコロナ後の海外旅行意図の高さは正の相関がある | q5a_2 |
| Hp2(-) | ルール遵守意識が高い事とコロナ後の海外旅行意図の低さは正の相関がある | q5b_1 |
| Hp3(-) | 周囲への感染の影響を心配する事とコロナ後の海外旅行意図の低さは正の相関がある | q8_3 |
| Hp4(-) | 感染後の重症化を心配する事とコロナ後の海外旅行意図の低さは正の相関がある | q8_2 |
| Hp5(-) | 保守的な考えである事とコロナ後の海外旅行意図の低さは正の相関がある | q5a_6 |

分析に用いたデータ

- Fumiko Kano Glückstad. (2021). Risk-perception, attitudes and behavioural intentions to spend on experiences in the post-Corona crisis: data from Italy, Denmark, China and Japan [Data set]. Zenodo.
<https://doi.org/10.5281/zenodo.5176085>
- 海外旅行意図を従属変数として分析を行う。

単純集計（環境的要因）

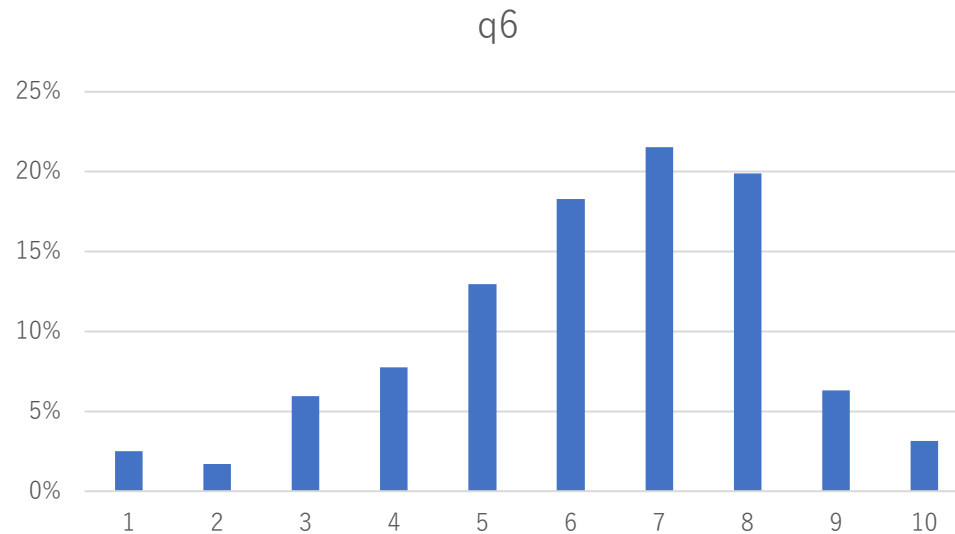
- 過去2年間に、仕事以外で、何回ほど宿泊を伴う国内旅行をしましたか？



1. 一度もしなかった
2. 1～3回
3. 4～6回
4. 7～12回
5. 13回以上
6. わからない

単純集計（環境的要因）

- 近頃のあなたの生活についてどのくらい満足していますか？

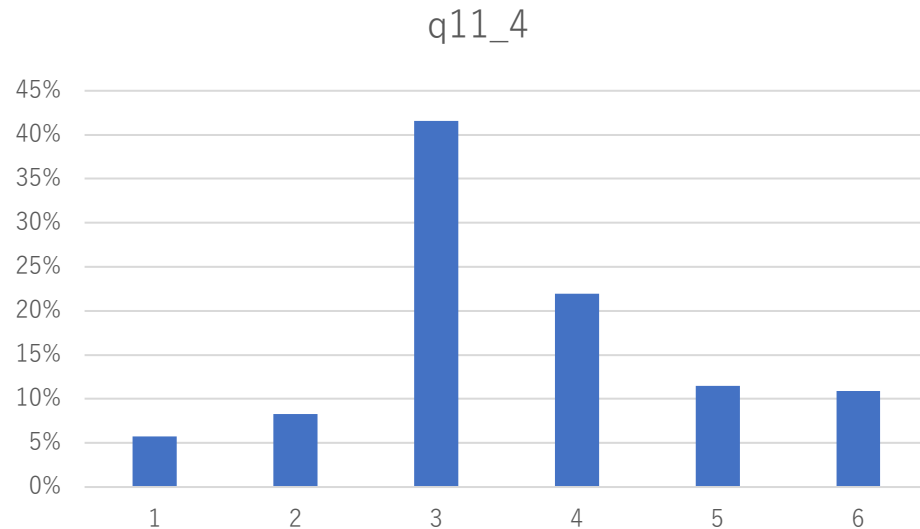


- <1> 1 – 全く満足していない
- <2> 2
- <3> 3
- <4> 4
- <5> 5
- <6> 6
- <7> 7
- <8> 8
- <9> 9
- <10> 10 – とても満足している

単純集計（環境的要因）

- 今年の休暇の旅行先を選ぶ際に、次の項目は、昨年と比べてどのくらい重要ですか？

→ 宿泊の料金が手頃な旅行先

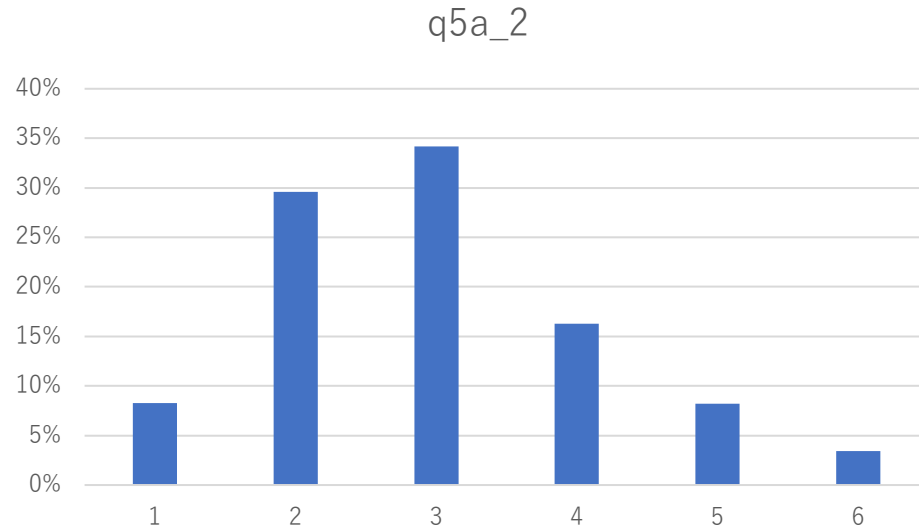


1. まったく重要でない
2. 重要でない
3. どちらとも言えない
4. 重要だ
5. とても重要だ
6. わからない

単純集計（性格的要因）

- 人によって大切なことは異なります。次のような人がいるとすれば、それぞれのあり方について、あなたはどの程度当てはまりますか？

→刺激のある生活が大切な人

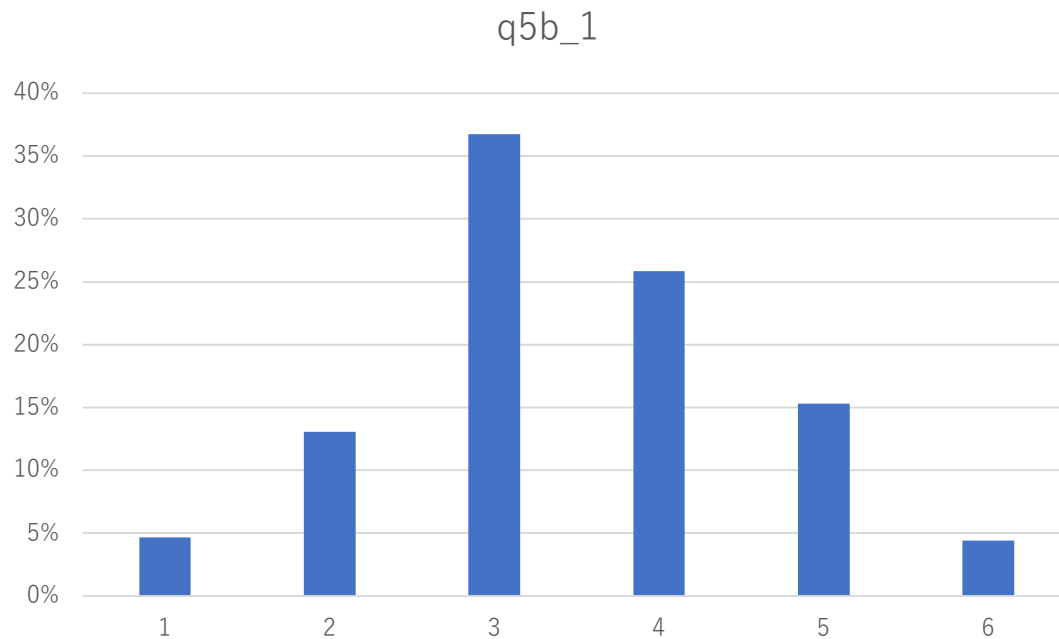


1. 全く当てはまらない
2. 当てはまらない
3. 少し当てはまる
4. 少し当てはまる
5. 当てはまる
6. 非常によく当てはまる

単純集計（性格的要因）

・人によって大切なことは異なります。次のような人がいるとすれば、それぞれのあり方について、あなたはどの程度当てはまりますか？

→定められたルールに常に従うことが大切な人

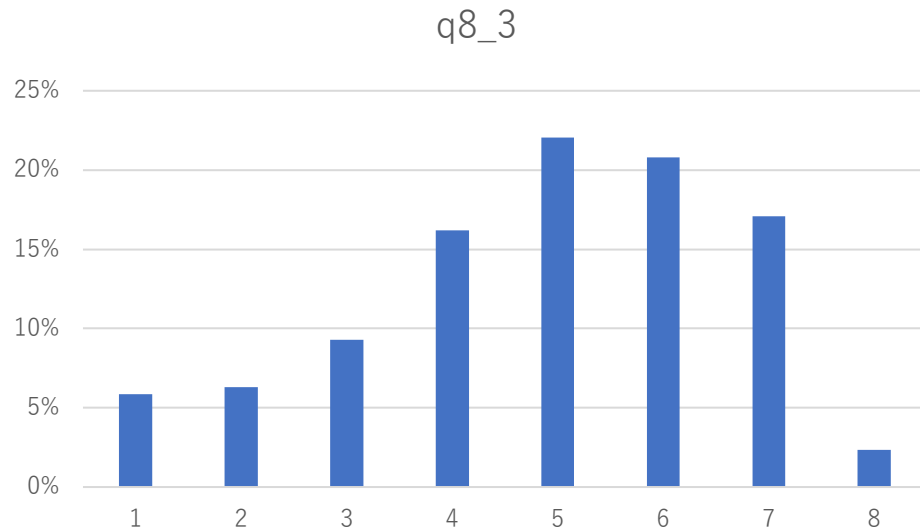


1. 全く当てはまらない
2. 当てはまらない
3. 少し当てはまる
4. 少し当てはまる
5. 当てはまる
6. 非常によく当てはまる

単純集計（性格的要因）

- 次の記述についてどの程度、あてはまりますか？

→新型コロナウイルスに自分が感染した後、家族が感染するのではないかと心配している

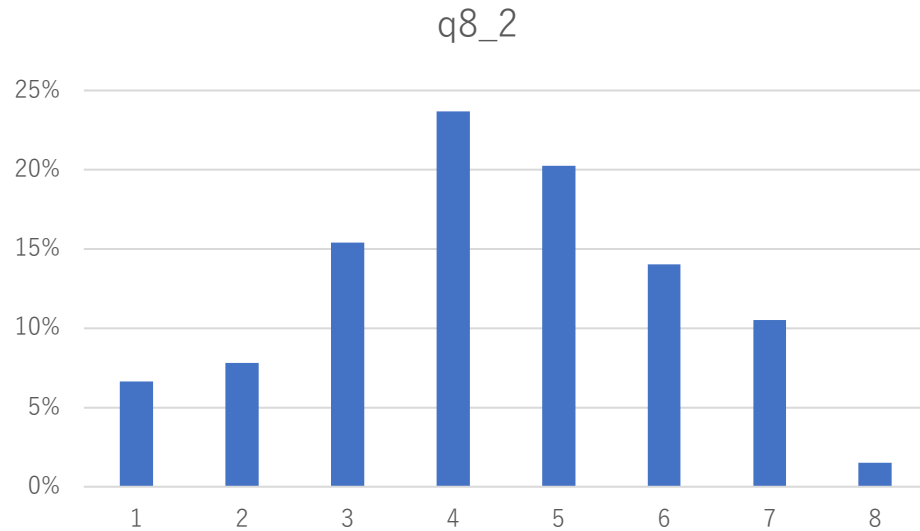


1. まったくあてはまらない
2. あてはまらない
3. あまりあてはまらない
4. どちらとも言えない
5. ややあてはまる
6. あてはまる
7. とてもあてはまる
8. わからない

単純集計（性格的要因）

- 次の記述についてどの程度、あてはまりますか？

→新型コロナウイルスに自分が感染した後、深刻な病気になるのではないかと心配している

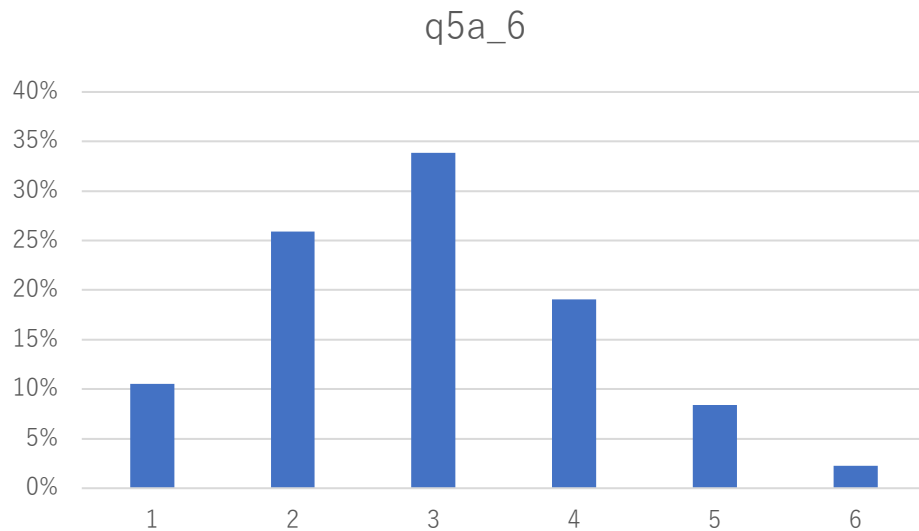


1. まったくあてはまらない
2. あてはまらない
3. あまりあてはまらない
4. どちらとも言えない
5. ややあてはまる
6. あてはまる
7. とてもあてはまる
8. わからない

単純集計（性格的要因）

- 人によって大切なことは異なります。次のような人がいるとすれば、それぞれのあり方について、あなたはどの程度当てはまりますか？

→伝統、宗教や家族によって受け継がれてきた習慣に従うことが大切な人



1. 全く当てはまらない
2. 当てはまらない
3. 少し当てはまる
4. 少し当てはまる
5. 当てはまる
6. 非常によく当てはまる

分析結果

| 仮説番号 | Estimate | Std. Error | t value | Pr(> t) |
|-------------|----------|------------|---------|--------------|
| (Intercept) | 51.22480 | 13.24028 | 3.869 | 0.000111 *** |
| gender | -1.66045 | 5.14614 | -0.323 | 0.746969 |
| profile_age | -0.79751 | 1.83952 | -0.434 | 0.664643 |
| He1(+) | 0.09766 | 0.02311 | 4.227 | 2.42e-05 *** |
| He2(-) | 0.70506 | 1.17949 | 0.598 | 0.5500 |
| He3(-) | 0.14856 | 0.01054 | 14.097 | < 2e-16 *** |
| Hp1(+) | -4.56774 | 2.00676 | -2.276 | 0.022886 * |
| Hp2(-) | 1.46116 | 1.76345 | 0.829 | 0.4074 |
| Hp3(-) | 0.12200 | 0.01873 | 6.514 | 8.21e-11 *** |
| Hp4(-) | 0.09782 | 0.01673 | 5.848 | 5.36e-09 *** |
| Hp5(-) | -1.84980 | 1.70429 | -1.085 | 0.2778 |

注)有意水準:0.1%=***, 1%=**, 5%=*, 10%=.

分析結果

| 仮説番号 | 仮説 | 結果 |
|--------|--|------------|
| H1(+) | 海外旅行経験が豊富である事とコロナ後の海外旅行意図の高さは正の相関がある | 採択(0.1%水準) |
| H2(-) | 生活への満足度が高い事とコロナ後の海外旅行意図の低さは正の相関がある | 棄却 |
| H3(-) | 金銭面への不安がある事とコロナ後の海外旅行意図の低さは正の相関がある | 採択(0.1%水準) |
| He1(+) | 刺激を重視する事とコロナ後の海外旅行意図の高さは正の相関がある | 採択(5%水準) |
| He2(-) | ルール遵守意識が高い事とコロナ後の海外旅行意図の低さは正の相関がある | 棄却 |
| He3(-) | 周囲への感染の影響を心配する事とコロナ後の海外旅行意図の低さは正の相関がある | 採択(0.1%水準) |
| He4(-) | 感染後の重症化を心配する事とコロナ後の海外旅行意図の低さは正の相関がある | 採択(0.1%水準) |
| He5(-) | 保守的な考えである事とコロナ後の海外旅行意図の低さは正の相関がある | 棄却 |

注)有意水準:0.1%=***, 1%=**, 5%=*, 10%=.

考察（環境的要因）

- 海外旅行経験が豊富だと海外旅行意図が高い
→海外への恐怖心によって海外旅行を躊躇している人が多いと考えられる。
- 生活への満足度が高いことと海外旅行意図には関連性がない
→生活への満足度が高い人々であっても、海外旅行への意欲が低いとは限らない。
- 金銭面への不安があると海外旅行意図は低い
→やはりコロナ禍で金銭的にダメージを受けた人が多く、金銭面がネックになっている人も多いと考えられる。

考察（性格的要因）①

- 刺激を重視する人は海外旅行意図は高い
→ 刺激を重視する人は、日常生活に変化や刺激を求めているため、海外旅行という非日常的な体験に魅力を感じ、海外旅行意図が高くなると考えられる。
- ルール遵守意識が高いことと海外旅行意図には関連性がない
→ コロナ禍もピークは過ぎ去り、人々は海外旅行に行くことをルール違反とは認識していないと考えられる。
- コロナの周囲への影響を心配する人は海外旅行意図は低い
→ 自分が海外でコロナウイルスに感染した際に、周囲へ感染を広げてしまうことを考え、海外旅行に躊躇している人が多いと考えられる。

考察（性格的要因）②

- コロナ感染後の重症化を心配する人は海外旅行意図は低い
→自分が海外でコロナウイルスに感染した際に、重症化するリスクを恐れ、海外旅行に躊躇している人が多いと考えられる。
- 保守的な考えであることと海外旅行意図には関連性がない
→伝統や受け継がれてきた習慣などを大切にする人であっても、海外旅行への意欲は低いとは限らないため、人々にとって海外旅行に行くことは日常的であると考えられる。

提言

- 傾向としては、海外旅行に行くこと自体には嫌悪感はなく、恐怖心や金銭面、また感染した場合のリスクがネックとして挙げられる。
- 反対に海外旅行の強みは非日常的な体験が出来るため、刺激が多い点である。

提言

- 以上の結果により、旅行会社はまず海外旅行というものを身近に感じられる取り組みが必要である
と考える。具体的には旅行会社として初海外の人向けのツアーを組むなどが考えられる。旅行の強
みは非日常感から得られる刺激が多いことであるため、ツアーの内容としては主に刺激を感じられ
ることを念頭に置いてコースを組むべきである。
- また、コロナ禍を経て金銭面から海外旅行を躊躇する人が増えたため、リーズナブルな海外旅行形
態を考える必要がある。具体的には早期予約割引やオフピーク時の特別プラン、航空券や宿泊や観
光などをセットにして提供するパッケージディールを用意することなどが挙げられる。また、柔軟
な支払いオプションなども顧客の金銭的な事情による制限を軽減できると考えられる。
- そしてやはりネックとして挙げられることはコロナ感染後の重症化リスクがある。しかし、2022
年7～8月の感染者のうち、重症化した人の割合は60歳未満で0.01%、60～70代は0.26%、80歳以上
が1.86%(出典:日本経済新聞「コロナ重症化率、インフル並み 厚労省が分類見直し議論」
<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUA2177C0R21C22A2000000/>)となっておりとても低い
割合となっている。また、2次データ⑥にも示したように、現在は感染症が危険な地域は無い。も
ちろん、旅行会社が感染リスクを最大限抑えることは前提となるが、重症化リスクについての正し
い情報も発信していくことが必要であると考えられる。

謝辞

データを収集、公開してくださったGlückstad, F.K. (2021) に感謝する。

参考文献

- Fumiko Kano Glückstad. (2021). Risk-perception, attitudes and behavioural intentions to spend on experiences in the post-Corona crisis: data from Italy, Denmark, China and Japan [Data set]. Zenodo.
<https://doi.org/10.5281/zenodo.5176085>

参考文献

・東徹「コロナ禍と日本の観光 ～課題と展望～」

https://www.jstage.jst.go.jp/article/sogokanko/20/0/20_11/article/-char/ja/ (2023年12月26日閲覧)

・わらしべ瓦版「みんな海外旅行に行きたい？コロナ禍収束後のニーズを調査しました！」

<https://www.am-one.co.jp/warashibe/article/tsukau-20210506-1.html> (2023年12月26日閲覧)

・METI journal ONLINE 「アフターコロナの中で、どこまで回復したか -旅行・観光-」

<https://journal.meti.go.jp/p/26916/> (2023年12月26日閲覧)

・グーネットマガジン「コロナ流行から3年...海外旅行を楽しむにはまだ早い！？意識調査」

<https://www.goo-net.com/magazine/knowhow/carlife/198057/> (2023年12月26日閲覧)

・外務省「海外安全ホームページ」

<https://www.anzen.mofa.go.jp/riskmap/> (2023年12月26日閲覧)

・日本経済新聞「コロナ重症化率、インフル並み 厚労省が分類見直し議論」

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUA2177C0R21C22A2000000/> (2023年12月26日閲覧)